

会 議 概 要

第 1 回 【旭・太田校区】学校適正化に向けた校区懇談会

《開催日》令和4年5月14日（土曜日）

《時 間》9：30～11：00

《場 所》旭地区公民館 講座室2

《参加者》地域参加者：9名 教育委員会事務局：6名

<議題等>

- 1 開会
- 2 事務局挨拶
- 3 懇談会参加者・事務局の紹介
- 4 議題
 - (1) 事務局からの説明事項について
 - (2) 意見交換

事務局	(別添資料に沿って内容を説明)
参加者	閉校になる予定の学校はどこなのか。
事務局	現在の実施計画(案)では、城東小学校、山直南小学校、山滝小学校、東葛城小学校、天神山小学校、修斉小学校の6校が対象である。旭小学校及び太田小学校については、一部通学区域を見直す案となっているため、両小学校を閉校するわけではない。
参加者	現在旭小学校に通学している子どもと、これから旭小学校へ入学する年齢の子どもの兄弟姉妹について、この計画(案)どおり進んだ場合、それぞれ別の学校へ通うことになるのか。
事務局	仮に実施計画(案)どおりの再編が行われたとしても、兄弟で異なる学校へ通学することとなれば、保護者・子ども両者に様々な影響が生じる可能性があるため、柔軟に対応したいと考えている。
参加者	土生中学校も現在のまま存続するということでよいか。

事務局	<p>そのとおり。元々土生中学校は、葛城中学校の生徒数増加に伴って分離新設した経緯があるが、現在は葛城中学校の小規模化が進行している状況であり、葛城中学校区を中心とした再編案をお示ししているところ。</p>
参加者	<p>取組のメリットもあると感じたが、資料の最後にあったように、「この学校に通わせたいからこの校区に家を買った」ということもあると思う。多くの人々と触れ合うことは良いことだと思うし、小規模の集団で育った子どもが大きな集団で戸惑ってしまうということは理解する一方で、保護者としては兄弟や友人と離れ離れになってしまうことを心配する。</p>
事務局	<p>地域説明会においても、そうしたご意見を多くいただいた。例えば、小学4年生のときに（仮称）葛城小中一貫校が開校したとして、そのタイミングで強制的に転校させるのではなく、卒業まで旭小学校へ通学し続けるというように、新しい学校が開校しても、在校生については卒業まで元の学校へ通うことができるといった対応を前提に考えている。</p>
参加者	<p>小学校は転校せずに卒業できるよう対応すると言うが、中学校進学時に土生中学校ではなく（仮称）葛城小中一貫校に進学しなければならないのであれば一緒ではないのか。</p>
事務局	<p>当懇談会でのご意見も参考にしつつ決定していくことになるが、通学区見直し対象地域の在校児童は、中学校についても元々の校区を選択できるようにするといった方策も考えていきたい。</p>
参加者	<p>取組のメリットは資料に書かれているとおりだと思うが、デメリットも提示してほしい。</p>
事務局	<p>学校の再編により生じる課題として、通学距離が遠くなる地域が生じることや、既存の地域コミュニティに影響が生じること等が挙げられる。</p> <p>再編の取組にあたっては、子どもたちの安心・安全な通学環境を確保するとともに、地域コミュニティについても、地域の主体的な判断を尊重した上で、引き続き、市長部局と連携してその活動を支援していく。</p> <p>また、現在避難所に指定されている小学校が閉校となった際の避難所のあり方については、危機管理部局が市全体を考えた上で適切に判断していくものと考えている。</p>

参加者	この校区懇談会が開催されたということは、新しい学校は必ず開校するということなのか。
事務局	現段階では、実施計画「(案)」なので、確定事項ではない。
参加者	しかし、こうして大々的に表に出されているということは、ゆくゆくはこうなっていくという話なのでは。
事務局	教育委員会としては現在の実施計画(案)が望ましいものと考え、お示ししているが、地域や保護者の皆様のご意見を聴かずに何が何でも進めていくというものではない。
参加者	この取組そのものに対しては、悪いものとは考えていない。学校再編について、以前から噂や話は聞いているし、地域説明会が開催されたことも知っている。それ自体は、このまま計画が進むのならば仕方のないことと思う。ただ、旭・太田校区から転校することについてのメリットとデメリットを教えて欲しい。仮に旭小学校や太田小学校が閉校となって、児童全員が転校することなら理解するが、この懇談会に呼ばれたということは、転校することについてどう思うか、ということではないか。
事務局	まずは、現在旭・太田校区となっている地域のうち、一部の通学区域を(仮称)葛城小中一貫校に変更するという見直し案について、地域や保護者の皆様が受け入れられるものかどうか、というところをお聞かせいただきたいと考えている。
参加者	新しい友だちをつくるのが苦手な子どももたくさんいると思う。そのような中で、学校全体で新たな学校に移るのであれば理解できる。当然、スクールバスの導入や、通学路の安全確保が前提にはなるが。そうではなく、一部地域に住む児童や生徒だけが、なぜわざわざ転校しなければいけないのか。その地域で新たな住宅開発が進んで、家が建ち並んでいくならまだしも、そうではない中で通学区域を見直すというのはいかがなものか。
事務局	仮に実施計画(案)どおり進んだ場合、小中一貫校となり、新たに現在の葛城中学校の場所に小学校が設置されることとなる。その場合、例えば土生新田であれば、これまでと比べて通学距離が非常に近くなる。神須屋町については元々、修斉・天神山・旭・太田の4小学校区に分かれている

	<p>という背景がある中で、小学校の配置が変わるのであれば、それに合わせて一度通学区域を検討し直す必要があると考え、今回（案）としてお示しをしたところ。</p> <p>先ほど申し上げたとおり、旭・太田小学校、土生中学校に通学する在校生については、転校が伴わない対応で考えていきたい。また、地域説明会では調整区域の設定を要望するご意見もいただいている。これらも踏まえ、教育委員会の方向性を整理していきたい。</p>
参加者	<p>葛城の谷地域では閉校になる予定の小学校が3校あるが、その3校と葛城中学校だけを再編し、学校が引き続き残存する旭・太田校区においては通学区域もそのまま、というのではダメなのか。それとも、その3校だけでは人数が足りないから、一部通学区域を見直すということなのか。</p>
事務局	<p>各学校規模のバランスを一定考慮したことや、見直し地域の通学距離等も勘案し、今回の再編区域をお示ししているところ。</p>
参加者	<p>人間関係を作り直すのは本当に大変だと思う。途中で転校を強いることは考えていないといった説明もあったが、これまでこの地域で暮らす中で、保護者も子どもも、同じ学校に通わせたいといった声も多いと思う。通学できる学校があるのに、一部地域だけ通学区域を見直されるというのは疑問。仮に選択できるとしても時限的な話で、どこかのタイミングで線引きされてしまうのでは、と危惧している。自分の身で考えても、これまで通学していた学校がなくなるわけではないのに、距離が近いからといって新しい学校に行くという判断にはならない。これまでの友だちがいる元々の学校に通いたいというのが当然だと思う。</p>
参加者	<p>地域説明会で出た意見について資料に記載があり、これに対する回答に「広く検討していく」などとあるが、現時点で「検討」ではない明確な回答はあるのか。</p>
事務局	<p>現時点ではまだない。この懇談会を通じていただいたご意見を踏まえ、決定していく。</p>
事務局	<p>土生新田からは葛城中学校がすぐ近くにあるが、友だち関係を考えたときにそちらを選択する考えにはならないというご意見も理解できる。一方で、「目の前に学校（葛城中学校）があるのに」といった声も実際に伺っ</p>

	<p>ているところ。</p> <p>子どもたちの人間関係や、地域コミュニティを考えた際に、従来の学校を選択したいということは理解できるが、小学1年生から（仮称）葛城小中一貫校に通うことになるとうちまた状況も変わってくるとも思う。様々なご意見を踏まえてより良い方向性を決定していきたい。</p>
参加者	<p>懇談会での話し合いの結果、実施計画（案）の内容が変わる可能性はあるのか。</p>
事務局	<p>いただいたご意見が子どもたちの教育環境にとってより望ましいと判断されるものであれば、修正を加える可能性もある。</p>
参加者	<p>現在通学区域の見直し対象になっている旭・太田校区で、子どもは何人いるのか。</p>
事務局	<p>令和4年度現在、小学生で約90人、中学生で約35～40人いる。</p>
参加者	<p>何百人もいるならまだしも、それだけの人数でわざわざ転校させるのか。</p>
事務局	<p>先ほど申し上げたとおり、転校が伴わない対応で考えている。</p>
参加者	<p>それは決定事項なのか。</p>
事務局	<p>決定事項ではないが、教育委員会としても、在学中の転校が生じない対応で考えている。</p> <p>また、1年生から入学する際も、調整区域として従来の学校と（仮称）葛城小中一貫校を選択できるようにするのかという点についても、方向性を決定していきたい。</p>
参加者	<p>小中一貫校においてもちびっこホームは設置されるのか。</p>
事務局	<p>新たな学校でも確保していく。具体的な設置場所については、市長部局と調整の上、決定していくが、基本的には学校内に設置できるようにしたい。</p>

参加者	<p>小中一貫校における小学生のメリットは書かれているが、中学生にとってのメリットは何があるのか教えて欲しい。</p>
事務局	<p>現時点でも小・中学校間で様々な小中連携を行う中で、小学生との交流を通じて中学生の自尊感情が高まっているのを現場でも感じていた。部活動で後輩の面倒をみるといったこともそうだが、年少者と触れ合うことは自尊感情を育む上でメリットだと考えている。</p> <p>また、小中一貫校では、小・中学校の教員が9年間を通じて子どもたちを見守ることができることもメリットだと捉えている。</p>
参加者	<p>小・中学生にとってのメリットとデメリットをもう少し整理して、次回資料として示してもらえればありがたい。</p> <p>子どもの人数が減少する中、学校再編自体は必要なことだと思うが、学校が閉校になる地域の方がどう考えているのか。天神山校区では市民協議会として反対していると聞いたこともあるが、現状について教えて欲しい。</p>
事務局	<p>旭・太田校区と同様、すでに第1回懇談会開催に向けた準備が整っている校区もある一方、現在校区懇談会の設置に向けて協議・調整を行っている校区もある。今後、他の校区の状況についても、適宜報告させていただく。</p>
参加者	<p>神須屋町が4つの小学校区に分かれているという課題を、土生新田の通学区域を変更することで土生町に起こそうとしているのではないか。現在は土生町の大多数が旭小学校区ということで、旭小学校を中心に連携しているが、仮に再編がなされた場合、新しい小中一貫校側の子ども会に参加する一方、地域のコミュニティ活動としては人間関係のないところに入ることになる。そのような場合、行政としてはどこまで手を差し伸べてくれるのか。</p> <p>また、新しい学校に移ったことで子どもが精神的にしんどくなってしまった際の相談等は現時点でどのように考えているのか。</p>
事務局	<p>通学区域変更に関わらず、子どもたちの学校生活における悩みごと等に対するサポート体制は現在もとっているところ。町会活動についても、市長部局と連携してサポートしていく考えである。なお、仮に新たな学校に子どもが通学することになっても、地域コミュニティの活動拠点をそれに</p>

	<p>合わせて変更することを強いる考えではない。</p>
参加者	<p>行政が命令する形を取らない・取れないということは理解するが、だからといってこちらに責任を持たせないで欲しい。サポートというならば、これまで地域説明会等で出た意見を踏まえた叩き台を示すべきではないのか。</p>
事務局	<p>地域活動について丸投げするということではなく、地域の意向を尊重したいという意味で申し上げた。再編に伴って生じる地域コミュニティの課題については、市長部局の担当課も協議に入った上で望ましい形について模索していきたい。</p> <p>実施計画（案）についても、本日いただいたご意見や地域説明会でのご意見も踏まえ、より良い方向性を決定していきたい。</p>
参加者	<p>子どもにとって最も望ましいのは学校が近いということだと思う。土生町は広いが、城内小学校や太田小学校など、近いところに通学している。神須屋町は4つの小学校区に分かれているが、通学距離が近い方が望ましいという考え方をすれば、現在の通学区域がベターだと思う。学校規模のバランスを取りたいということもあるだろうが、子どものことを考えると通学距離の近さが大切だと思う。</p>
事務局	<p>本日いただいた様々のご意見を踏まえ、方向性について検討させていただき、次回開催時にお示ししたいと考えている。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>